

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Association of Preconception or Antepartum Maternal Intimate Partner Violence with Autism Spectrum Disorder in 3-Year-Old Offspring: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊婦への身体的心理的 DV と生まれた子どもの 3 歳時の自閉スペクトラム症

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Women's Health

年: 2023 DOI: 10.1089/jwh.2022.0439

筆頭著者名: 磯上 弘貴

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

自閉スペクトラム症は社会的コミュニケーションや行動・興味・活動パターンが制限される神経発達症ですが、詳細な病因は不明です。ドメスティックバイオレンス(以下 DV)は 10-70%の女性が受けているとされ、妊娠中に DV を新規に受ける、もしくは悪化することも多く、早産や胎児発育不全、新生児死亡との関連も報告されています。妊娠前・妊娠中の身体的・心理的 DV と自閉スペクトラム症の関連について報告した大規模研究はないため、エコチル調査データを利用してその関連を調べました。

方法:

エコチル調査に参加した妊婦及び生まれた子どものデータから、22 週以降に分娩となった症例を対象とし、妊娠前・妊娠中の身体的・心理的 DV それぞれの有無と出生児の 3 歳時の自閉スペクトラム症の診断の有無との関連について統計解析を行いました。解析時に、妊婦の年齢や体格、分娩回数、喫煙・飲酒や学歴、収入、分娩週数、母の精神疾患の既往といった妊婦の社会的な背景因子や妊娠出産経過の要因も考慮しました。

結果:

79,324 人の妊婦について解析を行いました。対象妊婦の 1.9%が妊娠前に身体的 DV を受けていました。妊娠前に身体的 DV を受けていない妊婦と比較して、妊娠前に身体的 DV を受けた妊婦では、生まれた子どもの 3 歳時の自閉スペクトラム症の診断のオッズ比が高くなりました(調整オッズ比 3.21)。一方、妊娠中の身体的 DV や妊娠前・妊娠中の心理的 DV と自閉スペクトラム症の診断との間には関連がありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

DV による心理社会的ストレスが胎児期の神経機能障害をおこし、子どもの認知機能や言語発達に影響を及ぼしている可能性があります。一方で妊娠中の不安障害や神経精神疾患の有無を考慮したことに加え、妊娠中の身体的 DV の有無とは関連しなかったことから、妊娠中のストレス要因とは独立して妊娠前の身体的 DV が自閉スペクトラム症のリスクに影響を与えている可能性があります。しかし、本研究では自己報告で DV の有無を評価しているため DV を受けている期間や重症度を客観的に評価することは困難です。さらに、自閉スペクトラム症に関しても 3 歳時点での医師からの診断の有無を基準としているため、診断がついていないが自閉スペクトラム症の症候がみられる子どもや 3 歳以降にその診断がついた子どもは含まれていないという限界があります。

結論:

妊娠前の身体的 DV の有無と生まれた子どもの 3 歳時の自閉スペクトラム症の有無には関連がみられました。妊娠前の DV の予防はその後生まれる子どもの心身の健康状態や神経発達に重要であると考えられ、今後妊娠前の DV が子どもの自閉スペクトラム症の病因に影響を与えるメカニズムを解明することが期待されます。